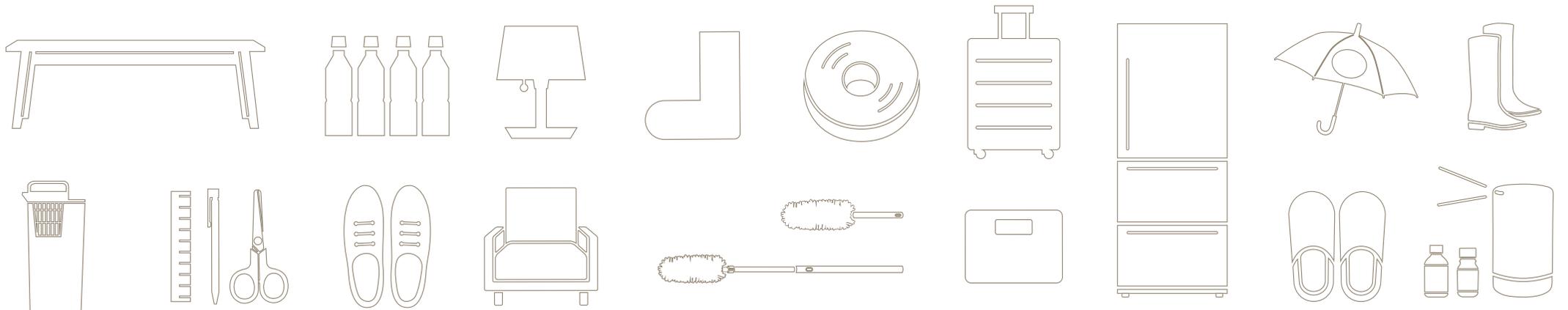


会社案内 2021

Corporate Profile

日本語 English

株式会社
良品計画
Ryohin Keikaku Co., Ltd.



無印良品について



1980年当初の40品目

無印良品の誕生は1980年。起点はものの生産プロセスを徹底して合理化することで簡潔で気持ちのいい低価格商品を生み出すことでした。「素材の選択」「工程の点検」「包装の簡略化」を通して見つめ直した実質本位の商品をつくり続けています。1983年に東京・青山に無印良品の単独店を出店、ものづくりから店舗環境、スタッフの接客まで、一貫した思想のもとで推し進め、気持ち良くお買い物をしていただける空間を目指してきました。

現在※、無印良品は、世界32の国・地域に1,000店舗以上を展開し、商品アイテムも、衣服や生活雑貨、食品、そして家まで、7,000アイテムを超えました。しかしその思想の根幹は誕生当時と変わらず、北をさす方位磁石のように、生活の「基本」と「普遍」を指し続けています。

※2021年8月末現在

会社概要

会社名 株式会社良品計画
所在地 〒170-8424
東京都豊島区東池袋四丁目26番3号
ホームページ <https://ryohin-keikaku.jp/>
設立 1989年6月(登記上1979年5月)
代表取締役会長(兼)執行役員 金井 政明
代表取締役社長(兼)執行役員 堂前 宣夫

資本金 67億6,625万円
決算日 8月末日
年商 4,536億89百万円(2021年8月期)
(良品計画グループ連結営業収益)
従業員数 18,163名(2021年8月期)
(臨時従業員等9,281名を含む/良品計画グループ)

2020無印良品メッセージ



ヒトは掃除をする生き物です。しかしそれは物や環境をピカピカに磨き上げることではないようです。少し観察してみると、掃除とは、人為と自然のバランスを心地よく整える営みであることがわかります。

環境を、自分たちに都合よく整え、都市や環境を構築する動物は人間だけです。だから自然に対してヒトがなした環境を「人工」といいます。人工は心地がいいはずなのですが、プラスチックやコンクリートのように自然を侵食しすぎる素材が蔓延してくると、ヒトは自然を恋しがるようになります。しかし自然は、放っておくと埃や落ち葉が降り積もり、草木は奔放に生い茂ります。したがって、自然をほどほどに受け入れつつ、適度に排除しながらヒトは暮らしてきたのでしょう。家や庭を作るにも、人工が勝りすぎるのは野暮。落ち葉は掃きすぎず、草木も刈りすぎず程よく茂るに任せます。まるで、打ち寄せる波が砂浜をあらう渚のように、人為と自然がせめぎ合う「ほどほどの心地よさ」を探し当てること、それが「掃除」の極意なのかもしれません。

2019年、私たちは世界中の掃除のシーンを撮影しました。COVID-19が世界を席卷する前のことでした。文化や文明を超えて営まれる掃除というごく普通の営みの中に、ヒトの本質が潜んでいるのではないかと考えてのことでした。世界が止まってしまった今、その写真や映像を見直すと、ごく当たり前の暮らしがとてもいとおしく感じられます。この先の未来においてどんなに技術が進んでも、ヒトは生き物。身体の奥底に響き続ける生のリズムがあります。ここに耳をすませていきたいものです。



もっと知りたい \

<https://ryohin-keikaku.jp/corporate/overview.html>

商品開発について

3つのわけ

無印良品のものづくりの基本となる考え方は変わっていません。時代が変わっても、変わらない3つの視点、①**素材の選択**、②**工程の点検**、③**包装の簡略化**、を守りながら“商品の原点を見直す”という姿勢で実質本位の商品をつくり続けています。

無印良品が目指すのは、「これがいい」ではなく「これでいい」という理性的な満足感をお客さまに持っていただくこと。つまり品質も価格も十分「これでいい」という意味です。ただ、そこに若干含まれているかもしれない不満や妥協を解消して、自信に満ちた「これでいい」を実現していきます。

素材の選択

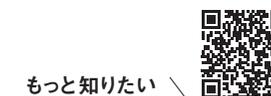
おいしくて健康にも役立つ食品。着心地よく、身体になじむ衣服。使い勝手を第一に考えた生活雑貨。ふだん見過ごしがちな基本のものづくりのために素材を見直します。品質は変わらないのに、見栄えのために捨てられているもの。業務用の素材。世界中から見つけた原材料や、安価で大量に確保できる旬のものなどを活かして、低価格で質の良い商品が生まれました。

工程の点検

ひとつの商品ができるまでのプロセスを徹底的に点検する。選り分けたり、大きさを揃える手間も不必要。不揃いのままだったり、つや出しせずに仕上げたり、商品本来の質に関係のないムダな作業を省いて必要な工程だけを活かしました。規格外のサイズ、かたちで捨てられていたものも商品に。素材をムダなく活かし、コストダウンにもなる、実質本位のものづくりです。

包装の簡略化

飾らず、もの本来の色やかたちのままを大切にしたい。過剰な包装をしない。まとめて一括包装に。共通容器に入れる。シンプルなものづくりであると同時に、地球の資源をムダにせず、ごみを減らすこともできるのです。無印良品の商品はすべて、成り立ちのわけが印刷されているパッケージであっさり包まれていたり、タグがつけられているだけで、店頭に並んでいます。



もっと知りたい \

無印良品を代表する“生活の基本となる日用品”

無印良品は、日常生活に役立つ、くらしの基本となる品々を取り揃えています。毎日使うものだからこそ適正な品質と価格でより多くのお客さまに提供することを目指しています。

衣料品

洗いざらしブロードシャツ

(1983年—)

綿本来の風合いを生かすために、洗いざらしで仕上げました。オーガニックコットンを使っています。



縦横ストレッチデニム

(1987年—)

縦にも横にも伸びる生地を使用しました。動きやすく、はき心地の良さが特長です。オーガニックコットンを使っています。



足なり直角靴下

(2006年—)

かかとの形に合わせて直角に編み立てた、足にフィットしてずれにくい靴下です。オーガニックコットンを使っています。



疲れにくいスニーカー

(2013年—)

歩きやすく疲れにくいインソールを内装し、撥水加工を施した生地で作りました。オーガニックコットンを使っています。



生活雑貨

綿パイルタオル

(1983年—)

織り方に工夫をして、洗濯を繰り返してもしなやかな使い心地が長続きするタオルに仕上げました。厚手、中厚手、薄手タイプをご用意することで、お好みの使い心地をお選びいただけます。



脚付マットレス

(1991年—)

ベッドとしてだけでなく、ソファのようにくつろげるため、部屋を広く使えます。デビュー以来、土台をスチール製に変えて強度を上げたり、側生地を洗える素材に変更するなど、改良を重ねてきました。



化粧水 敏感肌用

(1999年—)

数十年かけてゆっくりとろ過ぎた、岩手県釜石市の天然水を使用したスキンケアシリーズです。乾燥が気になる敏感肌に潤いをたっぷり与えて保護します。



掃除用品システム

(2001年—)

掃除する場所やその日の気分に合わせて、ポールやアタッチメントの組み合わせを替えて使う掃除用品システムです。



食品

バナナバウム

(2000年—)

2017年の仕様見直しでは、焼きムラや凸凹、変形など、おいしさに関係なくはじかれていたものも生かし、「不揃いバウム」としてリニューアルしました。



ホワイトチョコがけいちご

(2001年—)

いちごをまるごとフリーズドライにし、ホワイトチョコレートをかけました。粒の大きさが不揃いなものや、いちごの果肉が見えているものも使っています。



素材を生かしたカレーバターチキン

(2009年—)

3種のトマトと鶏肉のコクを生かし、ギーでまろやかに仕上げました。現地の味と文化に学び、見直しを重ねながらおいしさを追求しています。



もっと知りたい

<https://ryohin-keikaku.jp/about-muji/history/>

■ 新商品・サービス この一年

再生コットンシリーズ

無印良品は、創業当初から「資源を無駄にしない」という考えを大切に、商品開発を進めてきました。再生コットンは、無印良品のシャツ・Tシャツをつくる生産工程で出た端切れを人の手で仕分け、粉砕してワタ状に戻し、未使用の綿と混ぜて再び紡績をしたものです。このように、服の生地を裁断する際に発生した端切れを再生して製品化することで素材を無駄なく生かし、地球資源の循環および廃棄物の削減につながっています。



商品例：再生コットン混太番手ボートネック七分袖Tシャツ
(2021年9月発売)

「いつものもしも」

新商品発売と防災プロジェクト拡大

(2021年8月開始)

無印良品は、「もの」「情報」「人」の3軸で防災の役に立つ商品・サービスを提案しています。2021年8月より、リニューアルした「いつものもしも セット」(3セット)と新商品「いつものもしも ハンカチ」「いつものもしも 着るバッグ」を順次発売し、法人向け承りサービスも開始しました。また、災害時に役に立つ情報発信「いつものもしも 期間」を開催するほか、災害発生時に当社の社員・スタッフがボランティア活動に参加する「災害ボランティア制度」も導入しています。



ペットボトルからアルミ缶へ

(2021年4月発売)

無印良品は、地球資源の循環化および廃棄物の削減に向けて、さまざまな取り組みを進めています。その一環として、2021年4月より、飲料全般のボトルをペットボトルから、循環型原料であるアルミ素材に切り替えました。さらに、2020年より“水”を起点としたサステナブルな取り組みをスタート。無印良品の約300店舗をはじめ、他企業や地方自治体に給水機を導入するなど活動の幅を広げており、お客さまと一緒に、環境や健康について考える機会を増やしています。



再生紙 トイレットペーパー長巻

(2021年3月発売)

無印良品では、朝起きてから夜眠るまで、何気ない日々の暮らしを感じ良くする日用品を揃えています。2021年3月、再生紙を使用した紙芯のない長巻トイレットペーパーを発売しました。芯のゴミが出ないため、最後まで無駄なく使用できます。また、コンパクトで置き場所を取らず、長く使えるため、防災備蓄用としても最適です。今後も、完成度の高いサステナブルな日用品を、いつも買いやすい、わけあって安い価格で提供していきます。



暮らしの基本となる家具の月額定額サービス

(2021年1月開始)

無印良品では、ものがあふれている時代に、必要なものを必要な「量」と「期間」、購入ではなく「利用」していただくことで、「これでいい」という質素・簡素を楽しむ「感じ良い暮らし」をお客さまと共創したいと考えています。2021年1月より、無印良品のベッド、デスク、チェア、収納家具を対象にした月額定額サービスを新たにスタート。また2021年4月より、こども家具の月額定額サービスも限定店舗にて承りを開始しています。



ココロギせんべい

(2020年5月発売)

世界中のさまざまな国・地域において「感じ良い暮らし」を提案する無印良品は、社会で今、起きているさまざまな課題に目を向けています。世界で急激に人口が増加する中、今後の食糧確保と環境問題を考えるきっかけになればという思いから、ココロギを食材とする取り組みを始めました。2020年5月、栄養価が高く、環境への負荷も少ないココロギをパウダー状にしてせんべいに練りこみ、商品化しました。



もっと知りたい \



<https://ryohin-keikaku.jp/topics/products/>

店舗について

無印良品は、衣・食・住の生活の基本領域において、品質と意味を磨き続けた商品を適正価格で提供すること、また、それぞれの店舗がその地域の活性化に取り組む個店経営を推進することで、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指しています。その店舗数は、日本を含む32の国・地域で1,000店舗以上となっています。これからも、各国・地域の皆さまの「役に立つ」存在となるために、商いを通じて「人と社会」に貢献することを目指していきます。

■ 日本国内店舗数

無印良品店舗 **456** Café&Meal MUJI店舗 **31** IDÉE店舗 **10**

■ 海外国・地域別 MUJI店舗数

546

中国大陸	299	スウェーデン	1	オーストラリア	5
香港	20	スイス	1	フィリピン	5
台湾	54	フィンランド	1	ベトナム	2
韓国	39	デンマーク	1	クウェート	3
イギリス	7	ポーランド	1	UAE	7
フランス	7	アメリカ合衆国	10	サウジアラビア	5
イタリア	6	カナダ	9	バーレーン	2
ドイツ	8	シンガポール	10	カタール	2
スペイン	4	マレーシア	9	オマーン	1
ポルトガル	1	タイ	22		
アイルランド	1	インド	3		

■ 海外Café&Meal MUJI店舗数

25

(2021年8月末時点)



食を通じた地域との協業店舗 無印良品 港南台バース

2021年5月14日オープン/売場面積:約5,118㎡

「無印良品 港南台バース」は、「食べるひとのおかげさま。育てるひとのおかげさま。」をテーマに、関東では初となる“食”の大型専門売場を備えた店舗です。無印良品がこれまで行ってきた食の取り組みを発展させ、食の量り売りや給水サービス、食の当日配送サービスなど、お客さまの役に立つサービスを取り揃えています。また、無印良品で初めての取り組みとなるキッチンカウンター（オープンキッチン）は、“食”をテーマに管理栄養士や食育アドバイザー、あるいは生産者と、街に住む方々が楽しく教え合い、学び合って、それぞれの知恵を交換できる場所として提案しています。お客さまに生産者の思いを伝えるとともに、生産者にもお客さまの声が届くよう、人と人のつながりや交流を生み出す場となることを目指します。



スーパーマーケット隣接店舗 無印良品 東武動物公園駅前

2021年9月16日オープン/売場面積:1,989㎡

「無印良品 東武動物公園駅前」は、「地域となにかを生み出す場所」をコンセプトに、毎日の暮らしに役に立つ品揃えと、顔の見える交流で地域に根付くことを目指した店舗です。店内には、誰もが自由に利用できるレンタルスペース「Open MUJI 学び舎」や、この地域ならではの魅力と楽しみ方を案内する情報収集・発信拠点「まちの案内所」を設置したほか、飲食店営業・菓子製造の許可申請に必要な設備を整えたシェアキッチン「みんなの台所」を無印良品として初導入。さらに、店舗前の芝生広場「みんなの広場」を、地域の皆さまが自然と集まる場所として開放するほか、ラジオ体操やマルシェ、清掃活動の起点とするなど、定期的なイベントの場として活用しています。



暮らしの全部店 無印良品 東京有明

2020年12月3日オープン/売場面積:4,628㎡

関東地方で最大級の売場面積を誇る「無印良品 東京有明」は、新鮮な野菜などの食品や生活雑貨から部屋のリフォーム、戸建販売、そして街の活性化まで、暮らしのすべてに関わり、店舗周辺に住む方々の「感じ良いくらし」の具現化をお手伝いする店舗です。無印良品のほぼすべての商品を揃えたうえで、【暮らしのサポート】【家づくり】【街づくり】の3つをテーマにおいた新商品・サービスを展開し、百貨店を超える“百八貨店(ひゃくはっかてん)”として、長く地域の方々の暮らしに役立つ存在になりたいと考えています。また江東区と連携し、不要になった服の回収や、余っている食品を必要としている方に届ける“フードドライブ”など、廃棄物の削減と、資源循環型の社会を目指した活動を進めています。



無印良品 天津大悦城

2020年12月24日オープン/売場面積:3,123㎡

無印良品 上海悠邁生活広場

2021年1月29日オープン/売場面積:3,288㎡

2020年12月、中国大陸・天津に旗艦店「無印良品 天津大悦城」が、2021年1月には中国大陸・上海に旗艦店「無印良品 上海悠邁生活広場」がオープンしました。素材そのままの味を生かしたレストラン「Café&Meal MUJI」やイベントを開催するコミュニケーションスペース「Open MUJI」を併設し、地域の文化を体験できるワークショップや周辺住民との交流を図る「つながる市」も開催しています。無印良品の視点から地元の魅力を再発見し、人と人、人と町をつなぐプラットフォームとなることを目指しています。



MUJI Vincom Center Metropolis

2021年7月3日オープン/売場面積:1,774㎡

ベトナムの首都ハノイに、東南アジア最大級の売場面積を持つ「MUJI Vincom Center Metropolis」をオープンしました。店内では、刺繍工房やMUJI YOURSELF、Open MUJI、カフェスペースなどのサービスを提供し、ベトナム産の新鮮な有機野菜や果物のほか、コーヒー、ドライフルーツ、チョコレート、ライスペーパーなどのローカル食品も取り扱っています。地域の皆さまと交わす何気ない会話からベトナムの人々をつなげ、ハノイで暮らす方々の生活に欠かせない存在になりたいと考えています。



MUJI CHIDLUM

2021年7月2日オープン/売場面積:1,678㎡

タイにおける無印良品の1号店として2006年にオープンした「MUJI CHIDLUM」は、2021年に移転・増床リニューアルを行い、売場面積を以前の約4倍に拡大しました。毎日の暮らしに必要な商品を幅広く取り揃えているほか、グリーンやMUJI Labo、ReMUJI、MUJI WALKER、IDÉEなどの商品、および刺繍工房やスタンプ台、Open MUJIなどのタイでは初めてとなるサービスも提供しています。さらに、生活のシーンを実際にお客さまに見ていただき、無印良品が考える「感じ良いくらし」を体感いただけるよう、店内にショールームを設置しています。



もっと知りたい \

<https://ryohin-keikaku.jp/topics/stores/>

感じ良いくらしの実現

当社が展開する無印良品は、単なる製品の集まりではありません。くらしの些細な断片から地球規模の未来までを見通し、考え抜く気配りの集合体でありたいと思います。社会で今、起きているさまざまな課題に敏感に呼应し、「良心とクリエイティブ」からそれらをより良い方向に解決していくプラットフォームでありたいと願っています。この想いのもと、さまざまな活動に着手しています。



「商い」を通じて社会に貢献する

当社は、ESG経営のトップランナーを目指しています。各自治体や地元住民が主役となって、それに無印良品が巻き込まれるかたちで地域を活性化していくさまざまな取り組みや、地球資源の循環化および廃棄物削減の取り組みを進めています。



無印良品 道の駅なみえ



無印良品 イーアス春日井



地域の課題解決やまちづくりに貢献する取り組み

良品計画は、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指して、無印良品の店舗を軸に、その地域に巻き込まれ、地域課題の解決やまちづくりへの貢献を図る活動を進めています。

その一環として、地域コミュニティの活性化や地球環境負荷低減など、各地域の課題解決を目指し、自治体と連携する取り組みを推進しています。2021年には、千葉県鴨川市・東安房漁業協同組合(3月)、神奈川県横浜市(5月)、福島県会津若松市(5月)、熊本県熊本市(5月)、北海道茅部郡森町(6月)、東京都新宿区(9月)、栃木県芳賀郡益子町(10月)、愛知県春日井市(10月)の8自治体と連携協定を締結しました。当社は今後も、自治体や地元企業、地元住民の方々と連携して地域振興につなげるとともに、地域の暮らしの役に立つことを目指していきます。

国内外で「移動販売バス」の取り組みを拡大

生活の在り方が変わっても、地域で変わらず「役に立つ」ために、何ができるのか。その考えのもとで始めた取り組みが、移動販売「MUJI to GO」です。

少子高齢化が進む地域などを対象として、当社スタッフが移動販売バスで巡回し、無印良品で取り扱う暮らしの基本アイテムを中心にお届けするとともに、地域住民の方々から日々の困りごとを伺い、地域課題の解決につなげています。

「MUJI to GO」は2020年に山形県酒田市でスタートし、2021年10月現在、国内は新潟県、北海道、広島県など、また海外はフィンランドの計7カ所にて実施しています。

当社は今後も、地域で助け合うことのできる「暮らしやすく住みやすい持続可能な地域づくり」に向けて、商いを通じて人と人のつながりを創出することを目指していきます。

パッケージ素材や陳列用素材の見直し

無印良品は、1980年のブランド創生以来、「素材の選択」「工程の点検」「包装の簡略化」の3つの視点でものづくりを続けてきました。本当に必要なものを本当に必要なかたちでお客様に提供することを目指した、実質本位のものづくりです。

店頭に並ぶ無印良品の全商品に付いているのは、成り立ちのわけが書かれているパッケージかタグのみです。また、パッケージ素材や陳列用素材、商品の副素材の見直しを重ねており、靴下の陳列用フックやエッセンシャルオイルのパッケージ、衣料品のタグを留めるピンなどはなくす、あるいは、これまでのプラスチック原料を中心としたものから再生紙などの代替素材に変更するといった取り組みを進めています。



もっと知りたい \

さまざまなかたちの無印良品



MUJI to GO 無印良品をぎゅっと凝縮。

MUJI to GOは無印良品の全商品から、旅・移動・ビジネス・学習・遊びに役立つアイテムをぎゅっと凝縮した厳選ショップです。便利な機能付きの文具や旅行が楽しくなるグッズ、普段の暮らしをそのまま持ち運べるものなど、空港で出会うとうれしいアイテムが揃っています。

<https://www.muji.com/jp/mujitogo/>



Found MUJI 世界中から、良いものを。

ものをつくるというよりは、「探す、見つけ出す」という姿勢でくらしを見つめ、世界中で永く使われてきた日用品を揃えています。もののエッセンスを残しつつ、現代の生活や文化、習慣に合わせて少しだけ改良し、適正な価格で再生していく活動を、これからも皆さまと一緒にしていきます。

<https://www.muji.net/foundmuji/>



MUJIcom 無印良品との新しい付き合い方。

毎日のように使うものはいつも通る場所でさっと買う。衣・生・食の全商品の中から日常生活に必要な商品を選定しました。自宅や職場、学校での必需品から、誰かへ贈るギフトまで、日々の暮らしをサポートする無印良品です。



EC事業

無印良品は、暮らしの基本となる品々を無駄な包装や工程を省くことで、お求めやすい価格にて提供しています。自社ECサイト「無印良品ネットストア」の運営に加え、「Amazon」や「楽天市場」などの通販サイトへ出品、出店することによって、本当に必要なものを適切な品質と価格でより多くのお客さまに提供し、さらなる利便性の向上を目指します。 <https://www.muji.com/jp/ja/store>



カフェ・ミール事業

無印良品のカフェを展開しているカフェ・ミール事業では、「素の食」をテーマとし、野菜のメニューを中心に、季節の素材やこだわりの食材をたっぷり使った、体にやさしく食べておいしい料理、デザート、ドリンクを提供しています。

<https://cafemeal.muji.com/jp/>



イデー事業

家具・インテリア等のホームファニーシングの企画・製造・販売を展開するイデー事業ではオリジナル家具および雑貨、アンティーク、カーテン、ラグといった商品を展開し、物販店舗以外では空間に関わるプロデュース、コンサルティング、デザイン業務を行っています。

<http://www.idee.co.jp/>



キャンプ事業

「過剰なサービスは省きましたが、自然は豊かです。」をスローガンに、津南キャンプ場(新潟県・津南町)、南乗鞍キャンプ場(岐阜県・高山市)、カンパーニャ姫恋キャンプ場(群馬県・姫恋村)の3つの拠点でキャンプ場を運営し、合計で約70万坪の森林を管理しています。また、3つのキャンプ場では、地域の方に講師として参加していただくアウトドア教室の開催を通して、自然への理解を深めていただく活動を行っています。

<https://www.muji.net/camp/>



株式会社 MUJI HOUSE

株式会社 MUJI HOUSEは、「家」という器を通して無印良品の考える「くらし」の提案を行っています。「無印良品の家」には、無印良品が手掛ける日用品のように、使い心地が良く、無駄を省いた理にかなったかたちや機能を持ち、耐久性があって、愛着を持って永く使える、無印良品らしい考え方が貫かれています。 <https://www.muji.net/ie/>





株式会社良品計画

〒170-8424 東京都豊島区東池袋4-26-3

<https://ryohin-keikaku.jp/>

Ryohin Keikaku Co., Ltd.

4-26-3 Higashi-ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo, 170-8424, Japan

<https://ryohin-keikaku.jp/eng/>

